

Society5.0におけるキャリア(未来に生きる資質)を展望しつつ、GIGAスクール構想を含む令和の日本型学校教育を進めるとともに、幼小中12年間を通して進める下高永福ファミリーを醸成させます。また、125周年を実現するために、本校の歴史と文化を学び、後世へと受け継ぐ取り組みを継続します。

令和7年度 学校経営方針～元気にあいさつなかよく協力みんなでがんばる高三の子～(R6までの実践を発展・定着させる)
 “本校は、知識を教養として実践する力(基礎的・基本的な学習内容を理解し生活の中で使うことができるしなやかさ)と強い意図(たくましさ)を身に付けた子どもを育てます”
 “本校は、「すべての資源を活用した教育」を進め、「夢(生きる意欲)」と「志(生き抜く強さ)」をもち地域・社会・自然とともに生きる子供を育てます”

現代社会が学校に対して「このような資質を身に付けた子供を育ててほしい」と一般的に要請している内容です。本校では、教育全体を通してこの3つの資質を実現した子供の姿として、最下段右側枠内に示しています。

【個人力を組織力へ(教職員)】相互指導(参観)・スキル等の伝承

OUT・情報共有(お茶のみ話)OFF JTを推進し組織力(ガバナンスとコンプライアンス)を強化します。

【保護者・家庭】広報活動を通して学校の取組を知り、それを強化する家庭教育を進めます家庭への情報提供、よいこと連絡。

【地域】学校の取組を知り、それを強化する物的・人的支援の協働者としますPTA、同窓会、地域(資源、中学校、関係機関)

【子供】生きる力を習得するための学び方を自ら実践する人となります。⇒下高永福地区での往還型教育による自治と活性化

☆(社会の要請)「知識を教養として実践する力」を身に付けた子供を育てます。

(本校の児童像)当該学年の基礎的・基本的学习内容(A)を理解し、考え方(B)までを知恵として生活の中で使える子供を育てます。

日時、前振り返り、本時めあて、学習内容の確認(板書)

↓ 学習の必要性の理解 学習ルール(学ぶ姿勢)の共有・徹底

↓ 学習方法(学び方)理解 どのように学ぶか

考える時間の確保(問題解決 ロジカル・クリティカルシンキング)

教えあい(言語活動、アクティブラーニング)の工夫

板書とノートの運動 反復・発展、補充(個に応じて)

主体的・対話的で深い学びの実現

↓ 何ができるようになるか

学習内容の整理 振り返り(めあての達成度と学習プロセス)

↓ メタ認知 学習内容の日常化(生活の中での活用を知る・使う)

↓ 主体性から自立・自治へ

☆学習環境整備、学習の約束の指導を徹底します。

☆基礎的・基本的内容は確実に理解させます。

☆学習プロセス(学び方)も理解させます。

☆そのためにめあての提示と振り返りをさせます。

☆教養として実践できるようにします。

☆(社会の要請)柔軟な人間性の基礎としての健やかな心身」と「豊かな健康生活を志向する資質」を身に付けた子供を育てます。

(本校の児童像)健康である状態と学び方が分かり、自ら健康いることができる(健康であり続けようと志向する)子供を育てます。

体育科授業のベーシック 環境整備による日常化

☆体育科指導におけるミニマムをキープします。

関係法令
日本国憲法、教育基本法、学習指導要領等

社会の要請
「生きる力」の育成
・知識を教養として実践する力
・教養の素地である豊かな情操や道徳心
・柔軟な人間性の基礎としての健やかな心身

本校が今やること
○教職員・組織 … 組織的教育の推進
○保護者・家庭 … 情報共有と協働
○地域 … 情報共有と協働
○子供 … 明日も来なくなる学校の協働

ロジカルシンキング(論理的思考)やクリティカルシンキング(批判的思考)を促す主体的対話的で深い学びやアクティブラーニングの推進、めあて学習(メタ認知)の徹底

すすんで考えやる子(学力向上) できた・分かった・もうできる! 楽しさの実感

【確かな学力(A・B学力)】

○各教科の基礎的・基本的な学習内容を確実に理解させる(習得)

○習得した内容を知識として学習や日常生活で使えるようにさせる(活用)

○自ら課題を見つけて学び考え、主体的に判断し行動し、よりよく問題解決する資質や能力を身に付けさせる(探求)

○学習に向かう意欲・態度を養う(学習意欲) 学力調査分析・ICT活用等

○学び方を身に付けさせる(自己調整学習)

(1) 基礎的・基本的内容の徹底 【授業の工夫、体験・課外学習、学習状況評価】

「学習する必要性の理解⇒単元と本時のねらいの徹底⇒実態に応じた柔軟な指導⇒ねらいに即した振り返りと自己評価の徹底⇒次時の内容と方法の構築」をベース的な順序とし、各教科の基礎的・基本的内容の徹底を図る

→繰り返し学習、習熟度別指導、補充・発展的学習、休み時間や放課後指導、長期休業中の指導、東京ベーシックドリルやデジタル教材・ICT機器等の活用

(2) 学び方の徹底と考える力の育成 【家庭への情報提供、実習補習】

「習得一活用一探求」の組み合わせを工夫し、学び方(“知る”“分かる”“できる”)を使えるまでのプロセスを身に付けさせるとともに実生活の中で生きる思考力・判断力・表現力を育てる

→体験的・問題解決的活動、言語活動(話し合い活動、学びあい、問題作り等)の工夫、振り返り等

(3) 学習環境整備

聞き方や話し方、学習道具の使い方等、集団で学ぶ上での基本的な学習姿勢や態度を身に付けさせる

→学習モデル(YD)的指導の徹底、学習道具の準備・片づけの徹底 等

心ゆたかでたくましい子(体力向上) 快の経験!

【健康・体力】環境整備、体力状況評価、マイクラススポーツ

○生涯に渡り運動に親しむ資質・能力の基礎を育てる(基礎的身体能力・学び方)

○健康的な保持増進と体力向上を図るとともに学び方を身につけ、楽しく明るい生活を営む態度を育てる(振り返り・自己評価を基礎としためあて学習)

(1) 体育科指導の強化

体育科指導のスタンダードを確認し、動機づけとなる体育科指導を進める

(2) 運動・健康行動の日常化 ex. 休み時間の集団散歩、子供の遊び隊形

運動委員会の啓発的取組(大会運営を含む)や校内環境整備(マイクラス

ポーツを含む)により運動の日常化を目指す

(3) 健康教育 ex. 早寝早起き朝ご飯、歯磨き、うがい・手洗い、換気

保健学習、保健指導を適切に実施し、生活リズムを身に付けさせるとともに、自ら健康の保持増進を図ろうとする態度と実践力を育てる

【共有と協働(教職員)】<チーム高三>

【全教職員】(校内委員会、いじめ防止対策委員会 他)

「目的・内容・方法・実践・評価・改善」について共有・協働して進める OFF JT、相互参観、他校参観、校内研究

【地域、保護者・家庭】(各種たより、家庭学習 等)

「子供の今」と「今必要な教育」、「教育の系統性」を発信し、学校、地域、保護者・家庭が子供を中心として同じ歩みを進める

子供園・保育園、中学校(中等教育学校)と連携し、教育の系統性を踏まえる

教育目標 すすんで考えやるぬく子
心ゆたかでたくましい子 なかよく助け合う子

基本方針(地域住還型教育による生涯参加型社会の推進)
小学校で身に付けるべき力(教育目標)を確実に身に付けて中学校へ進学させること(系統性の確保)
【学校教育のプロ】
教職員が共存と協働を大切にして「チーム」として組織的に教育活動を進める

【家庭教育のプロ】
保護者・家族が会話を大切にして「家族」として愛情にあふれる生活を進める
【街中教育のプロ】
地域が個別化を大切にして「おらか学校」「ご近所」として子供を守り育てる

みんなのしあわせを創る杉並の教育

人は誰もがしあわせになりたいという願いをもっています。誰もが自分らしく生きることを大切にしながら、将来を見通しにくい社会の中で、みんなのしあわせを創るために、一人一人が当事者として共に認めあいながら、協力して社会を創り、担うこと、そして、それを支える教育が大切です。

I 私たちが大切にしたい教育 「学びあい、信頼をつくり、共に生きる」(センス・オブ・ワンダーから始まる学び) 学び合い、教え合いの中で、多様で新たな学びのつながりが生まれることにより、対話的な学びの楽しさが一人ひとりの主体的な学びをさらに促し、「人生100年時代」をいきいきと学び続ける力を育み、信頼をつくり、共に生きることへつながっていきます。

「ちがいを認め合い、自分らしく生きる」 多様化する社会の中で、誰もが自分の個性を大切にし、自分らしく生きるために、あらゆる他者を固有の尊厳を持つ存在として互いに尊重し合うことが必要です。(略) その積み重ねが、多様な背景を持つ人々が交流し、思いを交換し合い、自分らしくよりよく生きていこうという意識や積極性へつながり、生きる喜びを確かなものにしていきます。

「誰もが社会の造り手として生きる」 私たちが生きていくこれから社会は、子どもを含めた誰もが、よりよい社会とは何かを考え、みんなのしあわせを願いながら、共に創り、担っていくことが求められます。(略) 誰もが教育の当事者であり、学びを通して、自分らしく生きるために力を育むとともに、持続可能な社会の創り手となっていきます。さらに、みんなが学び合い、教え合い、支え合うことで、共に夢をつむぎ出し、誰もがしあわせに生きることのできる社会の創り手として生きることへつながっていきます。

II 一人ひとりが教育の当事者として心がける視点 1 子供の思いを尊重する 2 ちがいを受け入れる 3 対話を大切にする 4 学びの成果を贈り合う 5 社会を創る当事者として考える 私たちは、「すべての人に教育を」(Education for All) という考え方の上に、「みんなが共に教育を創る」(Education by All)当事者となり、「みんなのしあわせを創る杉並の教育」を豊かに育て続けることによって、誰もが自分らしく生きることができる「みんなが創るまち」(City by All)の実現につなげていきます。

学校(学校教育のプロ)、家庭(家庭教育のプロ)、地域(街中教育のプロ)として、それぞれの立場で役割を果たすことで協働し、地域の未来を担う子供を育てます。

☆(社会の要請)「教養の素地である豊かな情操や道徳心」を身に付けて子供を育てます。

(本校の児童像)自分を大切にでき、自分が幸せなら周りも幸せ、周りが幸せなら自分も幸せと心から思う子供を育てます。

ありがとうの心を表現し、当たり前のことを当たり前に実行する

やってよいこと それとも やってはいけないこと
やったほうがよいこと それとも やるべきこと

☆自らの行動や態度を日常的に振り返ることで意味を考えさせ、基本的行動様式を徹底させます。

☆先生と児童、児童相互が意図的にかかわりあうことで人間尊重の命と心の教育を進め、思いやりの心を優しさや穏やかで表現できるようにします。(人プロ、安プロ)

学習モデル(UD)的に共有

全ての子供は支援を必要としている

共感的な児童理解 対話のある学級

学級内の人間関係構築 よさの認め合い 自尊感情

☆(背景のある状況を共感的に理解しつつ) いじめ・不登校ゼロを適切な様相の一つとします。(いじめ防止基本方針、いじめ総合対策、QUテスト、フレンドシップサポートやアンケートの活用)

☆共感的理解による個別の児童理解を進めます。

☆学級内の人間関係を構築し、自尊感情を高めます。

☆安心から自身を持ち、意欲を高めるサイクルで指導を進めます。

多様性に共感し思いやりに満ちた芯のある優しい心を育む教育を実現可能な2020学校レガシーとして(多様性と調和)

☆教育活動の目的、内容、方法、実践、評価、改善の情報を共有・実践します。

☆危機対応に際しては、組織として対応します。(いじめ防止校内組織、特別支援教育校内委員会等)

明日も来なくなる学校

本校の目標す児童像

☆当該学年の基礎的・基本的な学習内容を理解し主体的に生活の中で使える子

☆学び方が分かり自立して問題解決できる子

☆学習の必要性を理解し自分のために学習に向かう子

☆自分を大切にでき、自分が幸せなら周りも幸せ、周りが幸せなら自分も幸せと心から思

う子

☆健康である状態と学び方が分かり、自ら健康いることができる子